

第3章 研究の方法

本章は研究の種類、研究の方法、データの出典、研究の対象、研究の道具、データ収集の技法、およびデータ分析の技法に関して説明する。詳しくは、その各の部分は次のようである。

A. 研究の種類

ステディ (2009) が述べているように、研究の種類は様々な観点によって分類することができると述べている。すなわち機能や目的やアプローチや分析するデータの種類などによって分類することができると述べている。

本研究は言語学研究の一つに含まれている言語に関する形態意味分析である。機能の観点によって、本研究は基本的な研究 (*fundamental/ basic research*) に含まれている。それは日本語学の分野の理論 (特に可能表現としてのら抜き言葉) を展開することができるように新しい理論や結論を探るためであるという機能を持っているからである。

目的の観点によって、本研究は記述的な研究 (*descriptive research*) に含まれている。それは実際の状態に可能表現としての「ら抜き言葉」の使用の現象を描写するためであるという目的を持っているからである。それに、アプローチおよび分析するデータの種類によって、本研究は定性研究 (*qualitative research*) に含まれている。それは定性的または自然的なアプ

ローチを使用、分析するデータが日本ドラマにおける会話文であるという定性のデータであるから。

このように、以上に述べたことによって、本研究は基礎的な研究としての機能を、定性的なアプローチで実際の現象（ら抜き言葉であるという現象）を描写するためであるという目的を持っている言語学研究。

B. 研究の方法

本研究が記述法であるという方法を使用した。スラホマド（1990）が述べているように、記述法は研究対象の影像を得るためにデータを収集、分類、解釈する仕方であるという問題を分析に使用される方法であると述べている。

その方法を使用した理由は、本研究は自然的に現在の「ら抜き言葉」の使用であるという現象を描写するために目的を持っているからである。したがって、その方法は本研究の対象を描写するために適切な方法であると思われる。つまり、その方法で適切に結果や結論などを出すことができると思われる。

C. データの出典

アリクント（2006）が述べているように、データの出典はデータが得られた主体またはソースであると述べている。本研究のデータ出典は 2005-2012 年の日本ドラマの会話文である。サンプルになったドラマが 15 タイ

トル、全数が 126 エピソードである。次は本研究のデータ出典になったドラマタイトルのリストの表である。

表 3.1 本研究のデータ出典のリスト

No.	ドラマのタイトル	エピソード数	リリース年
1.	ビューティフルレイン (BR)	12	2012
2.	冬の桜 (FS)	9	2011
3.	ごくせん (GKS)	9	2008
4.	グレートティーチャー鬼塚 (GTO)	11	2012
5.	心の糸 (KI)	1	2010
6.	高校生レストラン (KR)	9	2011
7.	流れ星 (NB)	10	2010
8.	20年後の君へ (NK)	1	2012
9.	1リトルの涙 (OLT)	11	2005
10.	プロポーズ大作戦 (PD)	1	2008
11.	流星の絆 (RK)	10	2008
12.	最高の人生の終わり方 (SJO)	10	2012
13.	東京エアポート (TA)	10	2012
14.	東京全力少女 (TZS)	11	2012
15.	全開ガール (ZG)	11	2011
合計		126	-

D. 研究の対象

ステディ (2009) が述べているように、記述的な研究の対象は一定のポピュレーションの中にある現在の現象や日常生活の中にある現在のケースであると述べている。本研究の対象は現在の日本ドラマの会話文に使用されている「ら抜き言葉」に関する現象である。

形態意味分析として、本研究の対象が形態的にも意味的にも分析された。ハエル (2008) が述べているように、形態分析の対象はモルフォロジーの単位、過程、およびその道具であると述べている。また、ハエル (2009) は、意味分析の対象は単語や文節や文などにある意味であると述べている。

したがって、本研究は形態意味分析（形態および意味）であるから、対象が分析することができるのはモルフォロジーの単位、過程、道具およびその意味であると思われる。

E. データ収集の技法

データ収集の技法とは分析のために要られるデータを集める仕方であると思われる。本研究のデータ収集の技法はトランスクリプション技法を使用した。アルワシラー (2002) が述べているように、トランスクリプション技法は答弁者がどのように言葉を構成するかを解するために使用されるデータ収集の技法であると述べている。

その技法はデータフォーマットに「ら抜き言葉」を使用している会話を記録する仕方で、日本ドラマからのデータを収集に使用された。そして、データを分類、データ分析の技法で分析した。その後、データ分析の結果を結論付け、本論文を書いた。

F. 研究の道具

前に述べられたデータ収集技法を実現するために、幾つかの研究道具を使用することができる。ステディ (2009) が述べているように、定性研究であるという言語学研究ではデータフォーマットやレコーダーなどを使用することができる。それに、研究者自身は直接に答弁者からデータを集めるので、研究道具として含まれることができると述べている。

本研究は道具としてのデータフォーマットおよびレコーダー (ダウンローダー) を使用した。データフォーマットとはローおよびコラムで成り立っている表である。ダウンローダーとはパソコンおよびソフトウェアの IDM (*Internet Download Manager*) である。ダウンローダーは本研究が要られるドラマのビデオおよびそのスクリプトを集めるために使用された。データフォーマットはそのドラマにある「ら抜き言葉」を使用している会話文を書き入れるために使用された。

G. データ分析の技法

データ分析の段階ではディストリビューション法を使用された。スタリヤント（1993）が述べているように、ディストリビューション法は決める道具がその言語の部分（単語やシンタクス機能や文節など）という方法であると述べている。その方法は様々な技法で実現することができる。

形態的に「ら抜き言葉」を分析するためには *Ultimate Constituent Analysis* (UCA) であるという技法を使用した。UCA 技法とは最も小さな要素になる言語の単位を分割するという技法である。本研究では、UCA 技法は音節によって「ら抜き言葉」を分割に使用された。

なお、意味的に「ら抜き言葉」を分析するためには文脈によって分析技法を使用した。その技法は「ら抜き言葉」に活用できる動詞の種類によっても可能の意味によっても分析するという技法である。

つまり、本研究は二つのデータ分析技法を使用した。すなわち UCA 技法および文脈によって分析技法である。UCA 技法は形態的に「ら抜き言葉」を分析するために使用されたが、文脈によって分析技法は意味的に「ら抜き言葉」を分析するために使用された。このように、本研究の対象になった「ら抜き言葉」は形態的にも意味的にも分析することができる。

詳しくは、次はデータ収集の段階、データ分析の段階、および結論付ける段階であるという行った研究活動の順序または研究のステップである。

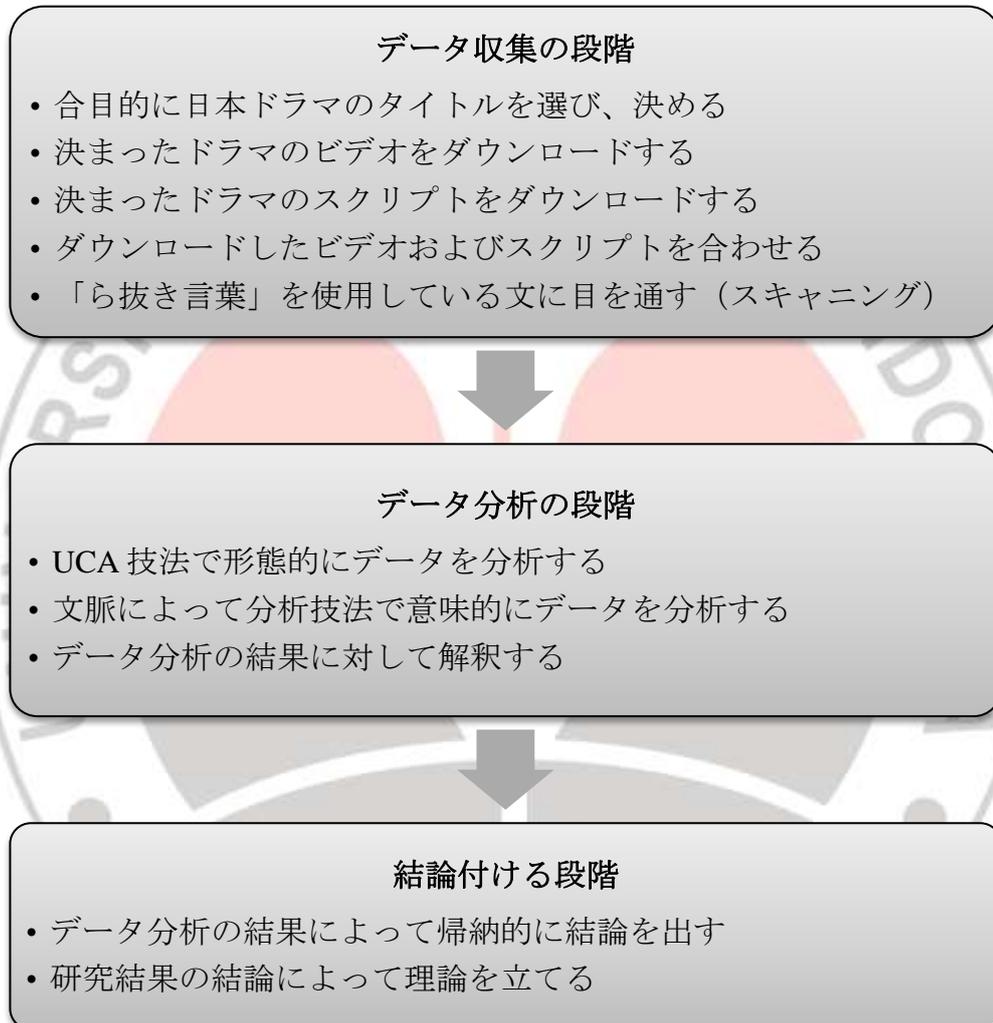


表 3.1 本研究の段階のチャート